



SIP 金融包摂・生活経済学会 40 周年記念シンポジウム

長寿社会における資産管理

～お金のケアを金融と福祉の連携から考える～

長い人生を健やかに過ごすことは素晴らしいことですが、年齢とともに記憶力や判断力を左右する認知機能は低下し、お金の管理に不安を感じるようになります。

本シンポジウムでは、慶應義塾大学が内閣府の支援で進めている「認知機能が低下してもお金の管理に不安を感じない社会」を確立する取り組みを紹介します。さらに、長く人々の生活問題を研究してきた生活経済学会とも連携してさまざまな領域の専門家を招き、金融・福祉の連携について議論します。



日時 2025年6月21日(土)

場所 慶應義塾大学日吉キャンパス 協生館 2F
藤原洋記念ホール

■所在地
神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1

■交通アクセス
東急東横線／東急目黒線／
横浜市営地下鉄グリーンライン
日吉駅 徒歩 1 分

※駐輪場はありません。
※二輪車でお越しの際は、市営駐輪場等外部駐輪場をご利用ください。



参加費 無料

定員 300人 ※対面参加のみ。オンライン配信はありません

参加登録 WEB からお申し込みください。 <https://forms.gle/Ne6iyV28cH6dHsoTA>
締切 2025年6月16日(月) 23:59 (定員になり次第受付終了)



■後援：厚生労働省、金融庁、消費者庁、全国社会福祉協議会、横浜市社会福祉協議会、日本金融ジェロントロジー協会、(株) ゆうちよ銀行

■お問い合わせ先：慶應義塾大学 経済学部附属経済研究所ファイナンシャル・ジェロントロジー研究センター ies-rcfg-office-group@keio.jp



プログラム

司会：丸山 桂氏 上智大学教授

13:00

開催の挨拶と学会・事業の紹介

駒村 康平氏 慶應義塾大学 経済学部附属経済研究所ファイナンシャル・ジェロントロジー研究センター長/生活経済学会副会長
 ■40 周年記念シンポジウムの趣旨について。

13:10

報告 1

「認知機能の低下にどう備えるか？」

■軽度認知障害や認知症など認知症が進むとどのような問題が発生するのか。
 認知機能の低下がもたらす問題とその準備について考えます。

成本 迅氏

京都府立医科大学大学院医学研究科 精神機能病態学 教授
 専門分野：認知症の臨床研究、認知症の方の意思決定支援など



13:40

報告 2

「認知機能の低下と資産管理

「事前に何をすべきか、エージング・リテラシーとして市民が知っておくべきこと」

■認知機能が低下するとお金の管理が難しくなります。
 「いつ、どのように、だれと」準備していくべきか、その「手引き」を
 皆さんにご紹介します。

山田 篤裕氏

慶應義塾大学経済学部 教授
 専門分野：高齢者の生活、所得保障に関する研究



14:10

休憩 (15 分)

14:25

パネルディスカッション

「長寿社会と生活経済学—金融と福祉の連携を巡って」

■軽度認知障害あるいは認知症を経験している人は1000万人を超えています。認知機能の低下は徐々に進むために本人では十分把握できず、知らないうちに特殊詐欺、消費者問題、投資詐欺、不動産詐欺に巻き込まれる危険が高まります。地域社会がこの問題にどのように対応するのか考えます。

司会 駒村 康平氏 慶應義塾大学教授
 パネリスト 大野 英明氏 信金中央金庫 地域・中小企業研究所 所長
 岡田 知拓氏 KAERU株式会社 代表取締役 CEO
 河口 典英氏 焼津市 健康福祉部地域福祉課重層的支援推進室 室長
 多田 政孝氏 社会福祉法人横浜市社会福祉協議会 横浜生活あんしんセンター 担当課長
 松本 恒雄氏 一橋大学名誉教授
 家森 信善氏 神戸大学教授

15:50

まとめ・閉会の挨拶

上村 協子氏 生活経済学会会長/東京農工大学
 ■学会の40年の歩みを振り返り、次の10年の展望についてご紹介します。